

四季折々の山の魅力を多くの人に感じてほしい

元山岳写真家

高寺 志郎 さん

たかてら・しろろ 90歳 温泉郷



昭和8年生まれ。青森県八戸市出身。趣味は読書とテレビ鑑賞で、司馬遼太郎の著書がお気に入り。テレビは流し見することが多いが相撲は必ず見るという。撮影をきっかけに岩手山などの山々に魅了され、移住して30年になる。

「写真展を開催してもらい、大変ありがたい」とうれしそうに話すのは、60代まで山岳写真家として活躍した高寺志郎さん。八甲田山や八幡平の樹氷など、東北の山々を中心に撮影した作品を展示した「東北の山と湿原」を県民の森・森林ふれあい学習館フォレストアイで開催中(2月25日(土)まで)。多くの来場者を魅了している。

母親からカメラを勧められたことがきっかけで、中学生の頃から写真始める。10代で片耳に難聴を患い、22歳の時には両耳が完全に聞こえなくなつた。それでも写真家として活動を続けられたのは「世界百名山の選定と撮影にも携わった写真家白川義貞氏との出会い、たおやかな山々が見せる魅力にはまったから」と当時を振り返る。現役時代は、無駄なものが排除され、本当に伝えたいことを直接的に伝えることができるモノクロ写真に強いこだ



フォレストアイにあるギャラリーに展示された作品を眺めながら思いを語る高寺さん

わりを持ち続けた。

亡くなった奥さんと屋久島を縦断したことが一番の思い出で「独りで冬山に行き、撮影することも多かったが、不安や恐怖心は全くなかった。周りの音が聞こえないことで自然に浸ることができた」と充実感を感じさせる。

高寺さんは「人それぞれ感じ方は違うので、好きなように作品を見てもらいたい」と笑顔で語り、日課の散歩をしながら、今日も大好きな岩手山の景色を眺める。

編集後記

▽立派なミズキを準備してもらいました」の連絡で松尾保育所に行く、古タイヤを積んでコモを巻き、俵に模した土台の上の立派なミズキがダンゴ待ち状態。松尾地区の松尾廣二さんが土台も含めて設置提供。こちらは写真で紹介出来ませんでした。が、抜群の存在感でした。▽今月に開催される国体に出場を目指す選手たちが集まった県民体取材しました。特にジャンプ競技は、台も改修されたり、五輪銅メダリストの永井秀昭さんも出場したりと、期待が高まっています。少し会場まで歩くことになりましたが、皆さんも選手たちを応援しましょう

雅

不眠症、自律神経症、不安神経症、眼・視力の悩み

薬のプロフェッショナルが
あなたのご相談を承ります

漢方の あさひ薬局

西根中学校前店(旧 西根病院前)

八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

